

世界の難民問題への関心を深めてもらおうと、筑波学院大（つくば市吾妻、大島慎子学長）は20日、イラクやシリアの子どもたちが撮影した映画を上映する「難民映画祭」を開く。「ファイダーを覗く子供たち」をテーマに、イラクとシリアの子どもたちが撮影した短編計8本のオムニバス映画を上映。学生は難民キャンプの廃棄テントを素材にした衣装も披露する。学生は「難民を助けたいという気持ちになれば」と来場を呼び掛けている。無料。

難民に関心寄せて

あす、筑波学院大 映画祭で短編8本



上映される短編映画は1本約10分の長さで、難民キャンプで生活する現地子どもたちの日常が描かれているという。イラン出身のクルド人映画監督パフマン・ゴバディ氏がディレクター兼プロデューサーを務めている。

同大は、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）の「難民映画祭学校パートナーズ（全国16校）」に参加。映画上映を通じて世界中の紛争、迫害などの問題について理解を深めることを目的としており、今年4月に同学内で上映プロジェクトチームを立ち上げ、開催の準備を進めてきた。衣装は、イラクの難民キ

難民キャンプのテントで作った衣装（中央）を着て映画祭をPRする学生たち（つくば市吾妻の筑波学院大）

ャンプで使われた廃棄テントの帆布を素材にして学生が作った。コンピューターグラフィック映像を学内の中庭に映すプロジェクトショーマッピングに合わせ、衣装を着て踊るダンスパフォーマンスが披露される。映画の上映は午前10時～正午、午後3～5時20分の計2回。場所は同大の大教室（定員500人）。事前申し込み不要。

プロジェクトチームリーダーを務める須藤愛里沙さん（経営情報学部3年）は「見てくれた人たちが『難民を助けてあげたい』という気持ちになってくれたら。トークセッションやパフォーマンスがある午後の上映がお勧め」と来場に期待している。

問い合わせは、同大事務局 ☎029(863)3456。

（高阿田総司）